

ヤマトグループ賛助会員向けニュース 発行部数12万部

ヤマト福祉財団

Yamato Welfare
Foundation

2004 Summer

No.3

NEWS

特集
クロネコメール便配達の
沖縄「わんからセンター」
レポート!

スワンの仲間のバーベキュー (7月3日山中ヤマト荘にて)

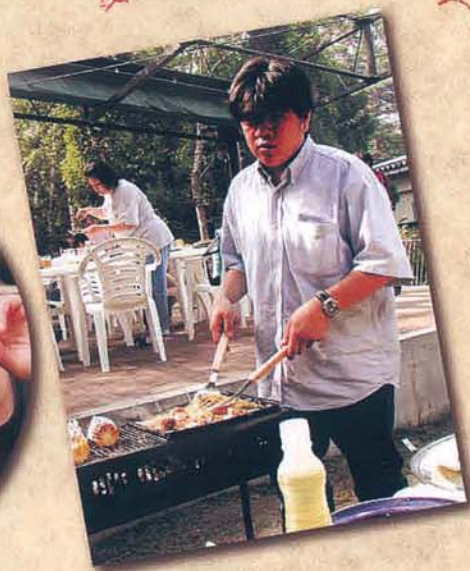
スワンの休日。 バーベキューや七夕がざり 障がい者31名、 総勢57名で山中湖へ。

スワンペーカリー銀座店、スワンカフェ&ペーカリー赤坂店、スワンカフェ銀座店の仲間達の親睦をかねた1泊旅行が7月3日・4日の2日間、行われました。

夏の山中湖へバス2台で出発。スタートから歌声ではずんでいました。

人数が多いため、山中ヤマト荘、富士山中湖畔荘、緑水荘に分宿、メインイベントはヤマト荘ひろばでのバーベキューや西瓜割り、ビンゴゲーム、七夕がざりでは「健康でいたい」「ずっとスワンで働きたい」など、さまざまな願いを短冊に託しました。

翌日は富士国際花園で、数百羽のふくろうのかわいらしい仕草に感動、そのあとは山梨名物のほうとうで昼食。この夏の熱い思い出をひとつ焼きつけました。



パワー アップ セミナー

延べ2,700人以上の共同作業所の皆さんが参加、
経営力アップ、障がい者の収入アップに役立てています。



講演を熱心に聞き入るセミナー参加者の皆さん

ヤマト福祉財団の自主事業の大きな柱の一つである、パワーアップセミナーは、経営と福祉の融合をめざして、1996年からスタートしました。全国600万人の障がい者のうち、一般企業に就職している方はごくわずかです。大半の方々が、全国に6,000ヶ所あるといわれている小規模共同作業所をよりどころにしています。共同作業所で働く多くの障がい者は、月給1万円以下に甘んじています。こうした現状を打開するために、ヤマト福祉財団は「月給1万円からの脱却をめざして」を副題にした、パワーアップセミナーを開催、共同作業所の経営力アップ、商品力アップを通して、障がい者の収入アップをめざしています。



政府の障害者施策の方向性を丁寧に解説された、
依田晶男 内閣府 参事官



依田参事官の話を受けて障害者や小規模作業所の立場から解説された、藤井克徳 ぎょうざれん常務理事

基調講演、講座、自主製品の発表会、成功事例紹介、交流会、グループディスカッション、パネルディスカッションなど充実した内容の3日間です。パワーアップセミナーを受講された多くの共同作業所の経営者、職員の方々が職場に戻られて、経営と福祉の融合を実践しています。今年も第9回パワーアップセミナーが、6月24日北海道エリアからスタートしました。



夜遅くまで続くグループディスカッション



マイ自主製品の発表と
大好評の、大塚由紀子講師のアドバイス!



厚生労働省の障害者施策・小規模作業所施策の方向性を解説された、
関口彰 厚生労働省 社会・援護局
障害保健福祉部 障害福祉課 課長補佐



パネラーから経営のヒントをいただいた、パネルディスカッション



グループディスカッションの発表会

クロネコメール便配達に活躍する

沖縄「わんからセンター」をレポート!!

レポーター
ヤマト福祉財団 前常務理事 高田三省

ことし五月、障がい者共同作業所の全国団体である『きょうされん』の立岡暁理事長から、ヤマト福祉財団を通じて山崎篤ヤマト運輸社長宛てに二枚の書面が送られてきました。内容は、「御社の有力商品であるクロネコメール便の配送の一部を私ども共同作業所や授産施設で担わせていただけないか……」というものです。

『きょうされん』からの要望書

文章はつぎのように続きます。

「すでに沖縄県那覇市や福島県いわき市などで一定の成果を収めているやに聞き及んでいますが、これを全国的に展開できないかと希望するものです。……全国には六千カ所の小規模作業所と二千カ所の授産施設があり、これらの共通の特徴は、それぞれ地域に密着していることです。メール便の仕事をやらせて頂ければ、きつと御社の期待に応えられるものと信じます」

財団の伊野武幸常務理事は、早速、その書面をもつて山崎社長を訪ねました。

社長は前向きな反応を示されました。自ら指を折り、作業所千カ所がそれぞれ毎日百部

配達するとして……配達料が仮に一部〇〇円として……」などと計算し、こりゃ共同作業所にとつてわるくない仕事だ、と言いながらさつそく担当部長を呼んで検討を指示されました。ヤマト運輸では、全国の共同作業所でメール便の配達をやりたい、そしてそれだけの能力もある、というところがあれば、これにできるだけ応えていく考えだと言われています。

障がい者にもっと働く機会を……これは障がい者問題の最大の課題の一つです。が、この不況下、心身に障がいのある人たちの就職は一段と厳しくなっています。

そうした中で『きょうされん』がヤマト運輸のクロネコメール便に注目したのは、メール便が①全国的な仕事であること、②きわめて地域と密着した仕事であること、③うまくシステム化すれば障がい者でも容易にできる仕事であること、以上の三点が共同作業所の仕事としてピッタリだと考えたからです。

しかも『きょうされん』の要望文にもあるよ

うに、沖縄など共同作業所によるメール便配達はずでに成功事例があります。そこで当財団では、早速、沖縄に飛び、沖縄の事例を見学することにいたしました。

沖縄へ現地見学

沖縄行は六月二十八日。現地は晴。二、三日前に梅雨が明け、日差しはつよいけれど湿度が低いので蒸し暑かった東京とは大違い、快適な天候でした。

当日は、糸満市西崎町の沖縄ヤマト運輸本社に直行し、鹿島利明社長をはじめ関係営業所長の皆さんや、メール便配達のリーダー、共同作業所「わんからセンター」相談員の永山盛秀さんらから、クロネコメール便の配達をめぐってそれぞれ話を聴きました。(話のあらましは別項)翌二十九日午前、「わんからセンター」などグループの共同運営拠点となっている「ふれあい

センター」を訪問し、配達業務に先立ってのミーティングの模様や配達作業を実際に見学いたしました。

メール便配達業務の概要

まず、今回の取材の対象となった障がい者共同作業所とメール便配達についての概要を紹介します。

メール便配達を行っている作業所は「わんからセンター」(那覇市楚部2-28-5。宮里裕子所長)。作業所を利用している人10名。すべて精神障がい者。

一方、配達を発注している沖縄ヤマト運輸の営業所は、浦添営業所(佐久間 猛所長)と那覇空港前営業所(又吉 淳所長)の二カ所。

ここで特筆されるのは、一般にヤマト運輸のメール便の配達業務は、「メートさん」と称する個人が契約対象ですが、「わんからセンター」の場



合、同センターが団体として契約主体になっていることだ。

これは、個人との契約の場合、その個人に事故や体調の不具合があるとたちまち業務がストップすることになります。団体との契約では団体が責任をもつてすぐに代替要員（ピンチヒッター）を出しますから、業務に支障が生じないという利点があります。また、システム化された作業に対応するための共同化という仕事の態様からみて、団体契約の適切さが理解できます。

配達手段はバイクと軽自動車

浦添、那覇空港前両営業所が「わんからセンター」に委託している配達エリアは次のとおりです。

◇浦添営業所 牧港地区 三地区

(世帯数四、三三三戸、人口二、四七三二人)

◇那覇空港前営業所 山下地区

(世帯数八六七戸、人口二、二四〇人)



バイクで配達に出発

また、さる五月の配達実績は、浦添三、八二二部（日平均二七部）、那覇空港前八〇三部（日平均三部）。

5月分の配達料収入は、浦添十二万七千円、那覇空港前二万六千円でした。

配達料単価は一般のメイトさんに支払っているのと同じです。

なお、沖縄ヤマト運輸におけるメール便の到着件数は日平均約二万部で、年間五〇パーセント増という著増傾向にあります。

「わんからセンター」のメール便の配達手段は、バイクと軽自動車です。軽自動車には、通常二人乗務。一人が運転、もう一人が配達を担当します。三、四人乗務して手分けして配達することもあります。

軽自動車で配達する場合、有償運送行為として法律に触れるので、「わんからセンター」では国土交通省の地元陸運支局に届出て、黒ナンバープレートで走っています。

ミーティング

六月二十九日午前九時、「ふれあいセンター」でのミーティング。業務開始前の役割分担などをきめるだいな打合せです。

まず出勤状況の確認。この日の「わんからメイトさん」は、男性二人、女性五人の合計七人。相談員の永山さんと宮里所長。当人も障がい者（一人）を中心にそれぞれの担当エリアなどがきめられていきます。皆で取り囲んだ卓上に、地区ごとに住宅、アパートの居住人名まで詳細に記入された白地図のコピーがおかれ、押元さ

宮里所長



業務開始前の役割分担などをきめるミーティング

んは何町、高良さんはどこ、喜納さんは何丁目という具合に。本人たちの意向も当然、聞き入れながら……。

ドッグフードで犬対策

卓上にとりどころ赤ペンで印のついた別の地図が何枚か散らばっています。太い字で「犬マツプ」。赤印は、この家には飼っているから、用心を、という意味です。

じつは、メール便の配達で何がいちばん問題ですか、と皆さんに質問を投げかけたところ、真っ先に返ってきた言葉が「イヌ！」です。

メール便は宅急便と違って受取人から判ごを貰う必要はありませんが、それでも個人宅な

メール便配達最大の難敵「犬」



どこの家に犬がいるか印をつけた犬マップ

ど玄関内まで届けることがあります。そのとき玄関脇の犬小屋などから飛び出してきた犬に「ワン！」と吠えかかられます。ときに噛みつかれることもあります。「とぼけた顔をした犬ほどよく噛みつくんです」と宮里さん。

沖縄ヤマト運輸の話では、犬に噛まれてケガをする事故は、全県では年間十件くらいあるそうです。ケガをして通院した場合、見舞金を出す制度も設けています。

「わんからセンター」では、犬対策として「わんからメイト」さんに市販のドッグフードを持たせることにしています。犬を手なずけるためです。これは効果てきめん、最近ではドッグフードを待ち受けている犬もいるそうです。



犬と仲良くなるにはドッグフードが一番

犬の次にイヤなのは雨です。「自分の体が濡れるのはかまわないんだけど…」とやはり宮里さん。「だじな配達品が濡れると困ります」と神妙です。

沖縄ヤマト運輸では、この七月から、雨対策の一つとしてメイトさん一人一人にウインドブレーカーを支給しています。

いざ出勤

午前十時、いよいよ出勤です。七人が担当エリアの地図とドッグフード袋を携え、それぞれバイクと軽自動車に分乗して浦添、那覇空港前営業所に向かいます。バイクのひびきがみんなの張り切りようを示しています。永山さん運転の軽自動車後を追っかけ、浦添営業所へ。

ベースの一角にテーブルを置き、みんなで営業所から渡されたメール便(ほとんどが雑誌、カタログ類)の仕分け作業を行います。先刻、作業所できめた担当エリア別に、これはAさん、これはBさん……と。そして各自、指導員に手伝ってもらい、白地図に配達先を探しながら赤



配達前の仕分け

ペンで印をつけていきます。

この日はたった四十二部。火曜日はいつも少ないのですが、四十二部は今まででもっとも少ない数量でした。

二人三脚の楽しい仕事

仕分けがすむとすぐに配達に出発です。携帯品は、地図、ドッグフード袋、そして配達品のほかに営業所から貸与されたP・P(ポータブル・ポジ)と称する配達完了入力機器の四点。

永山、宮里組の軽自動車に同乗させてもらいました。永山さんが運転し、地図に線引きしたルートに沿って配達先へ。配達先の家までくると宮里さんが下車して配達品を届けます。



「ハイ、ありがとう」の一声がうれしい

「クロネコメール便です。」「ハイ、ありがとうございます」といったお客さんとの明るいやりとりの声が聞こえてきます。配達が終わるとP・Pへ入力。次から次へと配達して回ります。たしかに犬も出てきたし吠えかかってもきました。しかし、けつしてひるむことも立ち止まることもな

一口メモ

【きょうされん】

障がい者共同作業所の全国組織。共同作業所活動を通じて障がい者福祉の向上と人権擁護を目的に、一九七七年八月結成。会員数二六〇〇。本部は東京都中野区中央5-41-18 東京都生協連会館内。

い宮里さんの仕事ぶりでした。まさに二人三脚によるシステム配達。永山さんが本当に楽しい仕事だ、と言われていたのがよく分かる気がしました。

全部の配達を終えて再び浦添営業所へ。P・Pを返し、「苦勞さんでした」という声に送られて営業所を出たのは午後二時半頃でした。

永山さんの「メール便のススメ」要約

「わんからセンター」相談員の永山盛秀さんが、全家連(全国精神障害者家族連合会)発行の季刊「REVIEW」(NO.4)に、「クロネコヤマトの「メール便」配達事業のススメ」と題する文章を掲載されているのでその要約文をご紹介します。

◎全国どこでも取り組める

ヤマト運輸は全国津々浦々まで配達網がゆきわたっている。だから仕事が少ない地域でもヤマトとの提携による仕事づくりが可能。とくにメール便の配達には障がい者の就労に役立つ分野たち思う。

◎仕事が細分化できる

ヤマト運輸営業所からの受取りから配達完了までにくらでも仕事が細分化できる。

わんからセンターでは一人分の仕事を十四人で分業している。

◎お客から感謝される

配達していると「苦勞さん」ありがとう」と声をかけられる。元気がでる。

◎セールズドライバーから学べる

セールズドライバーは仕事に責任と誇りを持っている。その姿勢が勉強になる。

◎地域交流ができる

メール便は当日中に配ればよいので時間的に余裕があり、配達中に地域の人たちと親しくなり世間話に話かすこともできる。これこそ生きた地域交流。

◎犬とも仲良くなれる

吠えられると怖かった犬たちが餌付けに

成功するとシッポを振って歓迎してくれる。

◎しっかり収入にもなる

配達料は二冊につき何円。たくさん配れば収入も多い。わんからセンターの配達部数は少ないほうだがそれでも十万円以上の収益がある。

◎なんといっても楽しい

この仕事の一番の魅力は楽しいこと。やればやるほど楽しくなる。

◎他の仕事とも関連させながら

わんからセンターではお米をはじめトイレットペーパー、味噌・醤油の宅配も行っている。メール便配達の仕事の幅をさらに広げよう。

「共同作業所に何か協力できることはないかと考え 私たちがから、永山さんにメール便の話を持ちかけました」

沖縄ヤマト運輸本社で、鹿島利明社長をはじめ、六笠保裕(財団沖縄支部事務長)、森嶋正義(アシスタントマネージャー)、佐久間猛(浦添営業所長)、又吉淳(那覇空港前営業所長)、そして永山盛秀(わんからセンター相談員)の皆さんから、共同作業所「ふれあいセンター」によるメール便配達業務をめぐっていろいろなお話を聞きました。以下はその主な内容です。なお整理の都合上、ヤマト運輸関係者の発言は二つにまとめました。

——「ふれあいセンター」がメール便をはじめたきっかけは？

ヤマト 四年前、沖縄で開かれたヤマト福祉財団主催の「パワーアップセミナー」で障がい者の就労問題が論議された。で、我が社として



鹿島利明(沖縄ヤマト運輸社長)



佐久間猛(浦添営業所長)

でも共同作業所に何か協力できることはないか、ということから永山さんにメールの話を持ちかけ、よしやってみようということになった。当初は心配だった。交通事故などの心配もあるし、細心の注意を払ってやってほしい、と……。あれから徐々に仕事に慣れて貰って配達範囲も広がっていった。

永山 最初、私たちは空港前営業所のいちはん配達個数の少ない地域をもらえたのでよかった。一日二十個前後、月に二万円前後の仕事。それでメンバーの訓練をし、力をつけてさらにハードなところをこなしていくようになった。そして今では月間十数万円の収入をあげている。はじめから高収入を求めていたら失敗したかも。私は、この仕事から収入以上に得るものが多いと思っている。いろん

なお客さんから、ありがとう、と感謝される。ヤマト運輸のドライバーと道で会っても、あれは誰々さん、といつの間にか新しい人間関係が出来上がっている。メンバーにとっては自らの社会が開かれていくようで楽しい……。

ヤマト 仕事のレベルは今では一般のメイトさんとまったく変わらない。うまくやれているポイントは何か、と人からよく訊かれる。ポイントというと、やはり永山さんにきくとやって頂いているのが大きい。が、うちの佐久間所長ら関係の者がちゃんとバックアップしてくれたことも忘れてはならない。営業所のトップからドライバーまで、障がいを持つメンバーをあたたかく見守り支えていかなないと……。配達している最中に、荷物量がふだんよりちょっと多いのにプレッシャーを感じて現場で動けなくなった。たまたま近くを通りかかったうちのドライバーから連絡があり、急ぎよ応援に駆けつけたことがある。メール便配達といってもけつして甘い仕事ではない。配達終了時の情報端末機の操作方法を身につけることも必要だし、障がいの程度によって

は難しい仕事でもある。

永山 メール便の仕事はたいへんな仕事だし、責任も重い。当初は特定のメンバーがひとり



又吉淳(那覇空港前営業所長)

だけでやった。本人は真面目に努力するんだが、ひとりではやるのは大変だな、と思った。とくに風の強い日だとか雨天の日には私が手伝った。そのうち配達という仕事が二見単純なようで細分化できる仕事だ、ということが分かった。そこで昨年一月から、作業所として組織的に取り組むことになった。一人作業だと当人に何か事故でもあると空白が生じると、組織的にやるとそれがないし、共同作業の楽しさもある。はじめの頃は三百部でも配りきれなくて帰ってくることもあったが、最近では慣れもあってかなり数がこなせるようになった。



永山盛秀(わんからセンター相談員)

障がい者の「メール便配達」に関するお問い合わせは

ヤマト福祉財団 担当:押尾まで Tel:03-3248-0691 Fax:03-3542-5165 E-mail:y.zaidan@yamatofukushizaidan.or.jp

6月3日に開催された「ダイヤル・サービス株式会社創立35周年記念式典」にスワンカフェ&ベーカリー赤坂店が出店しました。

ヤマト福祉財団評議員の今野由梨さんが代表取締役社長を務めている、ダイヤル・サービス株式会社の創立35周年記念式典が、ダイヤル・サービス本社で6月3日に開催されました。式典にスワンカフェ&ベーカリー赤坂店が出店、社員の皆さんをはじめ多くの方々に焼き立てパンを食べていただき、大好評でした。



6月28・29日、スワンベーカリーチェーン店研修会を開催!

ヤマト運輸の葉山研修センターで、スワンベーカリーチェーン店研修会を開催しました。全店の責任者が参加して、パンの製造・販売の研修を行いました。さらに、タカキベーカリー秦野工場を見学しました。



日本財団の、全国の競艇場看板に、今年は、スワンカフェ&ベーカリー赤坂店が登場!

日本財団は、今年5月1日から1年間、スワンカフェ&ベーカリー赤坂店をテーマにした広告看板を展開しています。赤坂店メンバーと女性競艇選手二人のツーショット写真です。看板は2種類あります。機会がありましたら、ぜひご覧ください。



スワンベーカリー-KOBE、スワンベーカリー-さがみはら店、スワンベーカリー-倉敷店がオープンしました。

open!

5月17日(月)に「KOBE」、5月20日(木)に「さがみはら店」、7月6日(火)に「倉敷店」がオープンしました。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



スワンベーカリー-KOBE
兵庫県神戸市長田区久保町 5-1-1-017
アスタくづか3番館地下1階
Tel.078-643-3222
営業時間：8:00~19:00
最寄り駅：日JR新長田駅より徒歩5分
地下鉄海岸線御々林駅より徒歩2分



スワンベーカリー-さがみはら店
神奈川県相模原市麻溝台7-1-7
Tel.042-749-8881
営業時間：10:00~17:00 (定休日/土・日・祝日)
最寄り駅：小田急線「相模大野駅」より「女子美術大」行き乗車約30分 総合体育館前下車徒歩3分。
小田急線「相模大野駅」より「女子美術大」行き乗車約30分 総合体育館前下車徒歩3分。



スワンベーカリー-倉敷店
岡山県倉敷市福田町浦田2461-21
Tel.086-456-5707
営業時間：7:00~19:00
最寄り駅：水島臨海鉄道 浦田駅前

スワンベーカリー-KOBEのスタッフが、阪神・松山選手にパンをプレゼント! パンを食べて、ホームランを打ってください。

5月26日、スワンベーカリー-KOBEのスタッフ5人が、甲子園球場を訪れ、阪神タイガースの松山進次郎選手に、焼き立てパンをプレゼントしました。スワンベーカリー-KOBEの運営母体に、松山選手が寄付金を贈呈してくれたことへのお礼です。阪神ファンのスタッフは、憧れの松山選手に「がんばってください」「いっぱいホームランを打ってください」とさかんにエールをおくっていました。



Universal service

ヤマト運輸の **誰にも便利な**
ユニバーサルデザイン **3**

「助かっている人がいます インターネット集荷再配達サービス」

2001年にスタートした「インターネット集荷再配達サービス」は、便利なサービスとして好評です。聴覚障がいの人にとっては、便利どころか今までの悩みを一挙に解決する画期的なサービスなんです。荷物を出すことは、コンビニや営業所に行けばいいので、問題ありません。問題は再配達の依頼なんです。不在票が入っていても聴覚障がい者は、電話でのコミュニケーションができません。「インターネット集荷再配達サービス」は、携帯電話からもアクセスできますから、自宅以外の所からでも再配達を依頼できます。荷物を出すことができても、受け取ることができないことがバリアだった聴覚障がい者は、通信販売を利用できない人が多かったのです。私が教えてあげると、「すごい便利、助かる」と皆さんから喜ばれます。まだまだ知らない人が多いので、もっともっとPRしたいですね。聴覚障がい者にとって荷物を受け取ることができ、健聴者にとっても便利な「インターネット集荷再配達サービス」は、いいことだらけのユニバーサルデザインです。

プロフィール
芳賀 優子 (はが ゆうこ)

1962年福島県生まれ。ヤマト運輸(株)に勤務のかたわら、(財)共用品推進機構などで弱視の生活者の視点から表現、発言活動が続ける。「弱視OL奮戦記」(都市文化社)「弱視の人に会おう本」(小学館)「ゆうことかりんのバリアフリー・コミュニケーション」(小学館)ほか。



がんばって
ますか!

障がい者の
職場めぐり

1 職場めぐり 東京主管支店ベース作業課

12名の知的障がい者が、メール仕分け、クール仕分け、ピックアップ、キーパンチャーなどで、ベースの重要な戦力になっています。

奥山俊さん



いろいろなことにチャレンジして、創意工夫する皆さんの姿に、勇気づけられる思いでした。

平成8年から障がい者が働いている東京主管支店ベース作業課に、シューターのキーパンチャーの名人がいるという話を聞いて訪ねました。忙しいなか奥山俊さんに、キーパンチャーの仕事をするようになった、きっかけなどを伺いました。「僕が休み時間にゲームをしていたら、手先が器用そうだからやってみないかと言われたのが、きっかけです。1時間に三千から四千くらい打っています。」

ベースで一番の人気者の山本純史さんにも話を伺いました。「僕はおもにメールの仕分けをしています。字は読めませんが字の形で覚えているので、間違いはないです。趣味は野球観戦です。日本ハムのファンです。特に新庄が好きです。」フォークリフトの免許に挑戦している後藤大輔さんは、「ヤマト福祉財団二ユースの春号で九州のロジスティクスの障がい者の人たちが、たくさん免許を持っている記事を見て、挑戦しようと思いました。左足の靭帯を痛めてしまったんで、これからはフォークリフトの仕事をしようと思います。」



後藤大輔さん



山本純史さん

2 職場めぐり 滋賀主管支店ベース作業課

知的障がい者6名が、2便3便のシューターへの流し、メール便の発送仕分け、資源ゴミの分別仕分けに活躍しています。



左から金子翔太さん、下野安広さん、若代卓也さん、松尾勇介さん

仕事を着実にこなし、職場の雰囲気明るく和やかにしてくれる皆さん。これからもがんばってください。

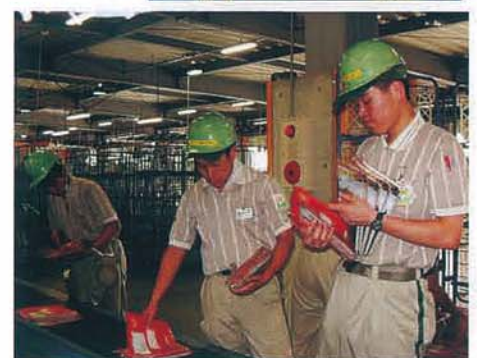
「仕事をすることが夢です。」

「仕事を着実にこなし、職場の雰囲気明るく和やかにしてくれる皆さん。これからもがんばってください。」

3年前から働いていますが、思わぬところで素晴らしい効果が生まりましたと話す一森サポート課長。「とかくぎすぎすしがちだったベースが、与えられた仕事を一生懸命こなしている彼らの姿を目の当たりにしているせいでしょうか、和やかな雰囲気になってきました。」

松尾勇介さんは、構内作業の他に各センターの資源ゴミの分別仕分けをしています。ベースに集められて処理しますので、滋賀主管支店では各センターでのゴミ処理代は発生しません。「友達と二人で住んでいますが、家事は役割をきめていて、僕は掃除係です。将来は車の免許を取るのが夢です。」

メール便の仕分けに忙しい金子翔太さんにお話を聞きました。「仕事にはすぐに慣れました。特に苦労したことはありません。僕の特技は滋賀県の電車時刻表を全部覚えていることです。小旅行を楽しんでいます。旅行をいっぱいすることが夢です。」



共同作業所とヤマト運輸が、埼玉県で新しい取り組み。

3つの共同作業所がヤマト運輸の主管支店内で
スワンネットの野菜販売を始めています。

スワン ネット

社会福祉法人 青い鳥福祉会 障害者就労支援事業「大地の仲間」

知的障がい者 27名 埼玉県東松山市 統括責任者 山田輝之さん

米、野菜の生産・宅配を手がけている「大地の仲間」は、 毎週金曜日、西埼玉主管支店で野菜を販売。



楽しそうに品さだめる女性社員の皆さん

田んぼ4町歩、畑2・8町歩で安く
おいしく安全な米、野菜を生産、東
松山市を中心に200軒に宅配販売
している「大地の仲間」は、第1回目
のパワーアップセミナーにも参加して
いる事業意欲の旺盛な作業所です。ス
ワンネットの野菜販売は平成15年1
月からはじめ、ジャガイモ、タマネギは
野菜の切れる時期には、特に助かって
いるそうです。季節物ですがスワンネ
ットのメロン、サクランボも手がけ、お
いしいとお客さんの評判も上々とか。
販路開拓に意欲的な「大地の仲間」は、
6月中旬から毎週金曜日、西埼玉主
管支店内で野菜の販売しています。女
性社員を中心に大好評のようです。

社会福祉法人 上尾あゆみ会

知的障がい者通所授産施設「大石作業所」

知的障がい者 59名

埼玉県上尾市

就業支援担当 富田直人さん



NPO新座市自援会 福祉工房「さわらび」

精神障がい者 46名 埼玉県新座市

スタッフ 星丘匡史さん



パンの製造販売を行っている 「大石作業所」は、毎週水・金曜日、 埼玉主管支店でパンと野菜を販売。

埼京主管支店でスワンネットの ジャガイモ、タマネギの対人販売に加えて、 無人販売にもチャレンジ。

パンとクッキーの製造・販売を平成
7年から行っている「大石作業所」は、
施設内の直売店の他に、市役所には
委託販売、市内の保育所、学校などに
は出張販売を行っています。スワンネ
ットの野菜販売は今年の4月からス
タート。スワンネットからの紹介で、
5月12日から埼玉主管支店内での販
売を始めるようになりました。販売
場所は食堂前の廊下にスペースをいた
だき。昼時ということもあって、パン
は1日150個前後、野菜も平均し
て5、6袋は売れているそうです。毎
週水曜・金曜日に、主管支店に販売に
来ている、施設利用者の斉藤宏さん、
小幡一美さんは「売れると楽しい」と
お話していました。

通所施設として、毎日利用する人
も週1回程度利用する人もいる「さ
わらび」は、さまざまな事業に取り組
んでいます。老人センター売店、養豚
場のえさ作り、リサイクルショップ、公
園清掃、自主製品作りなどなど。今
年の3月からスワンネットのジャガイ
モ、タマネギ販売を始めました。6月
から埼京主管支店の休憩室で販売し
ていましたが、食堂入口に移動したと
ころ、70袋売れて新記録を達成した
という、うれしいお話を聞くことがで
きました。春号で紹介した、杉並区の
済美会の無人販売にヒントを得て、
休憩室で無人販売コーナーを設けて
います。週に2回、商品の補充と集金、
着実に売上げを伸ばしています。

詳しいお問い合わせは

〒104-0061 東京都中央区銀座2-12-15 ヤマト運輸別館8F 株式会社スワンネット 営業部長 門脇 悠
Tel. 03-5148-1066 Fax. 03-5148-1067 e-mail : kadowaki@swannet.jp

お詫びと訂正

ヤマト福祉財団ニュース春号で、間違いがありました。8ページ「精神障がい者小規模作業所オリープ」様を紹介したコーナーで、「知的障がい者 43名在籍」とありますが、正しくは「精神障がい者 43名在籍」です。お詫び申し上げます。

助成先を
訪ねて。

〈炭焼き特集〉

株式会社スワン製炭

山間部に住む障がい者の仕事を創造することを目的に、平成15年6月に会社を設立しました。現在4ヶ所の障がい者施設が炭焼きに挑戦し、3ヶ所の施設が準備中です。販路を持たない施設から炭を買い上げ、福岡市内の宅急便センターでの店頭販売、通信販売を行っている。炭の専門会社です。

〒812-0065 福岡県福岡市東区二又瀬新町7-32 ヤマト運輸株式会社福岡第一物流システム支店内
TEL.092-626-7507 FAX.092-611-7708
E-mail:mail@swan-seitan.jp

社会福祉法人 かぼちゃの国
カントリーワークばんぷきん
障がい者を含めて25名
大分県直入郡久住町



上/左から滋賀さん、
藤本さん、工藤さん
下/左から御手洗さん、
森さん

阿蘇山のすそ野に広がる久住高原の豊かな自然にいだかれた「カントリーワークばんぷきん」。茅野明施設長になぜ炭焼きなのか訊ねました。「障害者施設で炭を焼いているカリタスの家に、山から切ってきたクヌギの原木を納める仕事していたとき、自分達でも炭が焼けると思ったからです。幸いにもヤマト福祉財団の助成金をいただけることになり、炭窯を作ることができました。」

炭焼きのコツは？「炭の焼け具合は煙突から出る煙の色で見極めます。最初は木に含まれている水分が水蒸気となって出るため煙は白いのですが、炭化が進むにつれて煙の色は紫になり、最後に透明になると炭が焼けた合図です。」

炭にする原木はどうしていますか？「山からクヌギを切ってきます。炭窯を満たすには、一度に軽四輪4台分の原木が必要です。皆で木を切って運び出す作業は大変ですが、木を仕入れなくて済むので収益には大きく貢献しています。」

「これからの課題は、収入を増やすことです。炭の生産量を増やすために炭窯を増やす必要があります。障害者の経済的な自立まで視野に入れると、単価の高い備長炭を焼くことにも挑戦してゆく必要があると思います。」

社会福祉法人 あらくさ
社会就労センターあらくさ(通所授産施設)
知的障がい者30名
広島県三次市

炭焼き班ウイングで活躍されている皆さん



中国自動車道に近い広島県の山間地に社会就労センター「あらくさ」があります。炭焼きを始めるきっかけを岡岡雅彦施設長に訊ねました。「障がい者の給料アップを考えて、内職に代わる仕事を探していたときに、ヤマト福祉財団中国支部事務長の竹下さんからタイミングよく声を掛けられたからです。」

炭焼きと内職の違いは？「内職は皆で同じ作業をしますが、炭焼きは段階を追ってさまざまな作業が必要になるため、その人の力に合った作業が選べます。その反面、皆で一致団結しないと炭が焼けませんので、チームワークが大事です。この点が炭焼きの良さであると言えます。」

ヤマト福祉財団の助成金は未知の世界の炭焼きに挑戦するのに、資金面で大きな支えになりました。「これからもチームワークを大切に、炭焼き事業を発展させてください。」

ヤマト福祉財団全国支部連絡先(ヤマト運輸(株)内)

支部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤房男	TEL.011-891-5040
東北支部	平井 忠	TEL.022-374-8065
東京支部	窪寺敏幸	TEL.03-5564-3705
関東支部	安田 稔	TEL.03-3471-9016
北信越支部	加藤泰男	TEL.025-231-9512
中部支部	黒沢一誠	TEL.0561-61-5111

支部	事務長	連絡先
関西支部	富川宣臣	TEL.06-6682-7127
中国支部	竹下憲雄	TEL.082-849-1451
四国支部	柳島憲行	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野和彦	TEL.092-931-3340
沖縄支部	六笠保裕	TEL.098-859-2811

賛助会員 個人49,504人 法人34社(2004年3月31日現在)

古紙配合率100%の再生紙とアメリカ大豆協会認定の大豆油インクを使用しています。

